

2017年2月10日 NEWS RELEASE No.137

『第11回 しょうゆ感想文コンクール』入賞者決定！
—全国の小学生(3年～6年)から、1,574点の応募—

日本醤油協会(会長 濱口道雄)では「食育」推進の一環として、「第11回しょうゆ感想文コンクール」を実施いたしました。

この感想文コンクールは、食育事業として協会が実施している「しょうゆもの知り博士の出前授業」と「工場見学」に連動した企画で、全国の小学生(3年生～6年生)を対象に、出前授業や工場見学で学んだこと、体験したことを感想文という形で記録にとどめることを目的に、広く自由な発想の感想文を募集する企画です。

昨年12月9日(金)に応募を締め切り、全国の児童から2つの部門に合計1,574点の応募をいただきました。それぞれの部門に日本の伝統調味料である“しょうゆ”について、子供らしい感性豊かな感想文が数多く寄せられました。

去る2月1日(水)に、下記の選考委員による「審査委員会」を開催し、厳正な審査の結果、別紙のとおり、各部門の入賞作品を決定いたしました。

なお、「審査委員会」では、予備審査を通過した51点の作品の中から、A:創造性(構想力)、B:文章力、C:発展性、等を選考基準として、厳正な選考を行いました。

《第11回「しょうゆ感想文コンクール」審査委員(敬称略・順不同)》

奈須正裕 (上智大学総合人間科学部教授)
畑江敬子 (お茶の水女子大学名誉教授)
松田博康 (玉川大学教職センター教授)
若手三喜雄 (共栄大学教育学部教授)
正田 隆 (醤油PR運営委員会委員長)
般若攝也 (日本醤油協会専務理事)

また、「第12回 しょうゆ感想文コンクール」は、本年4月より開始いたします。(応募締め切り:平成29年12月8日(金))。これまで以上に全国の多くの児童の皆さんからのご応募をお待ちしています。

第11回しょうゆ感想文コンクール入賞者一覧

2017年2月10日

主催：日本醤油協会

審査委員：奈須正裕（上智大学教授）

畑江敬子（お茶の水女子大学名誉教授）

松田博康（玉川大学教授）

若手三喜雄（共栄大学教授）

正田 隆（PR運営委員会委員長）

般若攝也（日本醤油協会専務理事）

賞名	受賞者詳細			
1. 最優秀賞 (各部門1点・計2点)	出前授業部門	しょうゆに夢中		さかがみ ともか 坂上 朋華
	青森県	八戸市立城北小学校	6年	
	工場見学部門	しょうゆ会議		かたせ ゆり 片瀬 由理
	愛知県	武豊町立緑丘小学校	4年	

2. 優秀賞 (各部門1点・計2点)	出前授業部門	しょうゆはすごいな!		さんべい ゆな 三瓶 悠奈
	福島県	いわき市立御厩（みまや）小学校	3年	
	工場見学部門	しょうゆとヨーグルトの相性		よこみぞ ましほ 横溝 麻志穂
	宮城県	仙台市立吉成小学校	6年	

3. 佳作 (各部門5点・計10点)	出前授業部門	魅力あふれるしょうゆ		おがきわら いちか 小笠原 一花
	青森県	八戸市立城北小学校	6年	
	出前授業部門	しょうゆはすごいな		よしだ なつき 吉田 菜月
	福島県	中島村立滑津小学校	3年	
	出前授業部門	作ってくれた人にかんしゃ!		のほら たまみ 野原 珠実
	岐阜県	岐阜市立西郷小学校	3年	
	出前授業部門	しょうゆの味のちがい		おかさき ゆうま 岡崎 結真
	岡山県	岡山市立津島小学校	3年	
	出前授業部門	びっくりしたしょうゆの歴史		やました おとほ 山下 乙葉
	徳島県	徳島市宮井小学校	6年	
	工場見学部門	正田醤油館林東工場でおどろいたこと		やまぎき ありな 山崎 有称
	埼玉県	春日部市立宮川小学校	5年	
	工場見学部門	しょうゆ工場の見学		まるやま なおと 丸山 直人
	東京都	文京区立小日向台町小学校	5年	
	工場見学部門	工場を見せてもらって		さかい てんか 酒井 天華
	岐阜県	羽島市立中央小学校	3年	
工場見学部門	しょうゆを世界中へ		ながさか あゆみ 長坂 歩実	
兵庫県	たつの市立神岡小学校	3年		
工場見学部門	みんなにやさしいヒガシマル工場		やの みれい 矢野 美麗	
兵庫県	たつの市立神岡小学校	3年		

4. 審査委員特別賞 (各部門1点・計2点)	出前授業部門	こんなに手間がかかっていた!!しょうゆ		かとう くおん 加藤 久遠
	愛知県	刈谷市立かりがね小学校	3年	
	工場見学部門	ふくじゅしょうゆ見学		かなまる ようすけ 金丸 遥祐
徳島県	徳島市福島小学校	3年		

賞名	都道府県	学校名
団体奨励賞 (1校)	岐阜県	岐阜市立西郷小学校

※学年は平成28(2016)年度です

「第11回しょうゆ感想文コンクール」最優秀賞 講評（審査委員会）

●出前授業部門 最優秀賞

題名：しょうゆに夢中

坂上 朋華 さん（青森県・八戸市立城北小学校 6年）

出前授業をきっかけとして、「ただの調味料」としか思っていなかったしょうゆに、段々と「夢中」になっていく私。その気持ちの変化や高まりの様子が、出前授業の展開、そこでの発見や気付きに対する的確でカラフルな描写と共に、流れるようなテンポで綴られていきます。フライパンでしょうゆを焦がすと「いそべ餅が並べられた、お正月の朝の香り」、半年間発酵させた諸味は「『じゃじゃ麺』の肉みそのような香り」と、微妙な香りの違いを繊細且つ個性的に描き分ける感覚の鋭さと豊かな表現力には、驚きを隠せません。

帰宅後に博士の言葉を思い出し、「ぎょっとした様子」の家族を尻目にキウイフルーツにしょうゆをかけて食べてみる下りは実に微笑ましく、さらに「期待と心配が、意外な結果につながったおどろきで、私は他の食材でもためしてみたく」なります。

万華鏡でも見ているかのように、しょうゆの魅力を様々な角度から見せてくれる素敵な作品です。

●工場見学部門 最優秀賞

題名：しょうゆ会議

片瀬 由理 さん（愛知県・武豊町立緑丘小学校 4年）

焼いたおもちに合うしょうゆを巡って、家族で「しょうゆ会議」が開かれます。その会議の場面を最初と最後に置き、真ん中にたまりしょうゆの工場見学の様子を配置するという組み立てが、まずもって魅力的です。

見学を通して、時間と手間をかけ、「自然といっしょになって作りたい」と手作りにこだわり、大変な仕事もいとわないお店の人を「かっこいい」と思った筆者。「木の皮もむけてザラザラする『おけ』も、たまりをおいしくする菌がいるから大切なのだ」と教わり、「古いとばかにしてごめんね。これからもがんばってね」と心の中で謝ります。

「黒くてすごくきれいな色」をしたたまりは、しょうゆ会議では惜しくも2位でしたが、「今度おさしみを食べるときは、たまりにつけてみんなで話しながら食べる」ことに決まります。「昔から受けつがれてきた自まんのたまり」を、地域の誇りと大切に思う心情があふれんばかりの愛らしい一品です。

以上の件に関する取材のお問合せは

しょうゆ情報センター（醤油PR協議会）
大関 恒雄（事務局長）、中川美代子
住所 東京都中央区日本橋小網町3-11（〒103-0016）
電話 03-3666-3286 FAX 03-3667-2216
URL : <https://www.soyosauce.or.jp/> E-mail : soyic@soyosauce.or.jp